

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式 特化型 (課税上は株式投資信託として取扱われます。)	
信託期間	無期限 (2002年6月28日設定)	
運用方針	信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	東海3県ファンド	「TMA東海3県マザーファンド」を主要投資対象とします。
	TMA東海3県マザーファンド	東海3県(愛知県、岐阜県、三重県)に本社があり、証券取引所に上場している日本法人の株式(これらに準じるものを含みます。)を主要投資対象とします。
投資制限	東海3県ファンド	株式への投資割合は、制限なし
	TMA東海3県マザーファンド	株式への投資割合は、制限なし 外貨建資産への投資割合は、20%以下
分配方針	毎決算時(原則として3月1日)に経費控除後の利子、配当等収益および売買益などのうちから、基準価額水準等を勘案して、分配を行う方針です。	

- 当ファンドは特化型運用を行います。特化型ファンドとは、投資対象に一般社団法人投資信託協会の規則に定める支配的な銘柄が存在し、または存在することとなる可能性が高いファンドをいいます。
- 当ファンドの主要投資対象には寄与度(投資対象候補銘柄の時価総額に占める割合)が10%を超えるまたは超える可能性の高い支配的な銘柄が存在するため、特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該支配的な銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化等が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

東海3県ファンド

第22期 運用報告書(全体版)

(決算日 2024年3月1日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「東海3県ファンド」は、このたび、第22期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング

お問い合わせ窓口

東京海上アセットマネジメント サービスデスク 0120-712-016

受付時間：営業日の9時～17時

<https://www.tokiomarineam.co.jp/>

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額		参考指数	株組入比率	純資産額	
		税金分配	騰落率				
	円	円	%	%	%	百万円	
18期(2020年3月2日)	9,658	0	△ 9.9	2,328.64	△ 3.2	99.3	6,517
19期(2021年3月1日)	11,424	500	23.5	2,973.96	27.7	98.8	6,670
20期(2022年3月1日)	11,106	500	1.6	3,028.91	1.8	98.5	6,019
21期(2023年3月1日)	10,998	500	3.5	3,276.54	8.2	99.0	6,105
22期(2024年3月1日)	15,355	500	44.2	4,556.26	39.1	99.4	7,723

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額		参考指数	株組入比率
		騰落率	騰落率		
(期首)	円	%	%		%
2023年3月1日	10,998	—	—	3,276.54	99.0
3月末	11,086	0.8	—	3,324.74	97.2
4月末	11,470	4.3	—	3,414.45	98.4
5月末	11,830	7.6	—	3,537.93	99.1
6月末	13,058	18.7	—	3,805.00	99.6
7月末	13,564	23.3	—	3,861.80	100.2
8月末	13,906	26.4	—	3,878.51	99.7
9月末	14,049	27.7	—	3,898.26	98.3
10月末	13,388	21.7	—	3,781.64	98.5
11月末	14,103	28.2	—	3,986.65	98.8
12月末	13,886	26.3	—	3,977.63	99.6
2024年1月末	14,864	35.2	—	4,288.36	99.7
2月末	15,734	43.1	—	4,499.61	97.6
(期末)					
2024年3月1日	15,855	44.2	—	4,556.26	99.4

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

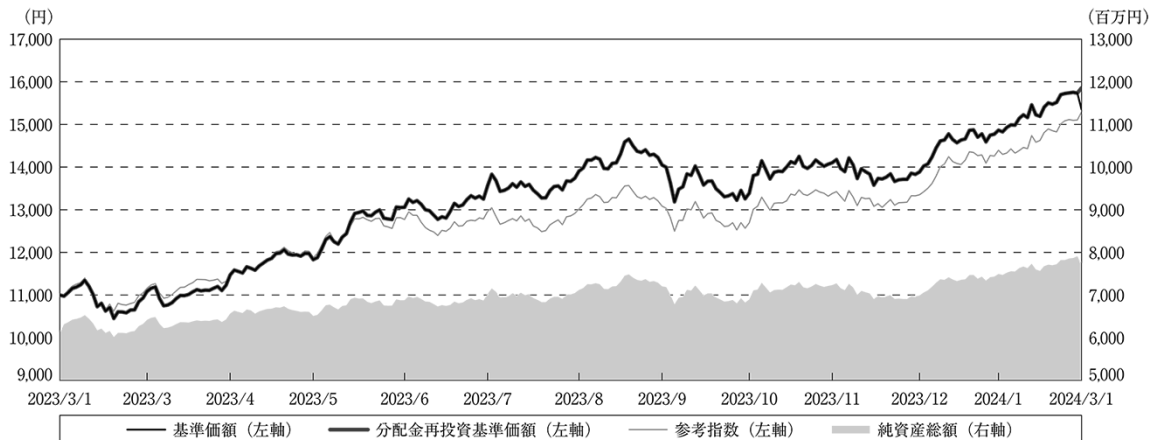
(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しています。

参考指数はTOPIX（配当込み）です。
配当込みTOPIX（以下「TOPIX（配当込み）」といいます。）の指数値およびTOPIX（配当込み）にかかる標準または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIX（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX（配当込み）にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。
J P Xは、TOPIX（配当込み）の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

○運用経過

(2023年3月2日～2024年3月1日)

■期中の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首(2023年3月1日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 参考指数は、TOPIX(配当込み)です。

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・新NISA(少額投資非課税制度)開始に伴う資金流入期待が高まったこと
- ・円安米ドル高の進行が好感されたこと

マイナス要因

- ・米国において金融引き締め長期化の懸念が高まる場面があったこと

■投資環境

後述の「TMA東海3県マザーファンド」の運用報告書をご覧ください。

■ポートフォリオについて

<東海3県ファンド>

「TMA東海3県マザーファンド」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持しました。

当ファンドの基準価額(税引前分配金再投資)は、マザーファンドの値動きを反映し、44.2%上昇しました。

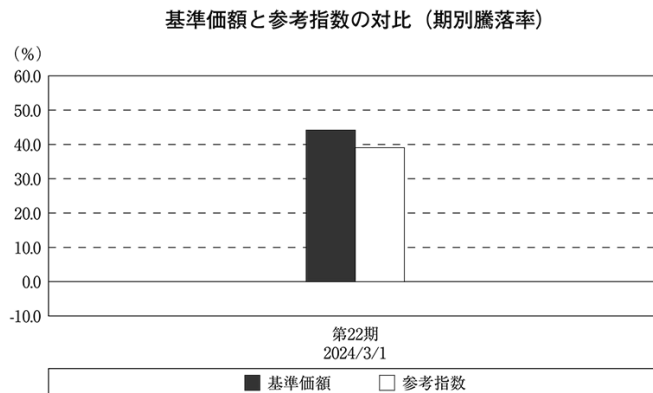
<TMA東海3県マザーファンド>

後述の「TMA東海3県マザーファンド」の運用報告書をご覧ください。

■当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けていません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、TOPIX（配当込み）です。

■分配金

当ファンドの収益分配方針に基づき、基準価額の水準や市況動向などを勘案して、次表の通りとしました。なお、収益分配に充てなかった収益については信託財産内に留保し、当ファンドの運用方針に基づいて運用を行います。

◇分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第22期
	2023年3月2日～ 2024年3月1日
当期分配金	500
(対基準価額比率)	3.154%
当期の収益	300
当期の収益以外	200
翌期繰越分配対象額	6,080

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<東海3県ファンド>

「TMA東海3県マザーファンド」を主要投資対象とし、高位の組入比率を維持します。

<TMA東海3県マザーファンド>

後述の「TMA東海3県マザーファンド」の運用報告書をご覧ください。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2023年3月2日～2024年3月1日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	145	1.078	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(71)	(0.528)	* 委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(59)	(0.440)	* 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(15)	(0.110)	* 運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.015	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(2)	(0.015)	* 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.006)	* 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	148	1.099	
期中の平均基準価額は、13,411円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

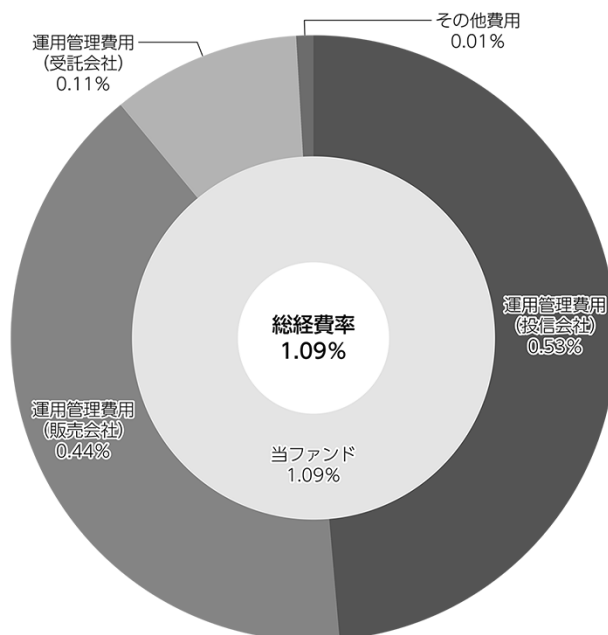
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.09%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年3月2日～2024年3月1日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
TMA東海3県マザーファンド		201,740	1,025,246	387,597	2,038,765

○株式売買比率

(2023年3月2日～2024年3月1日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	TMA東海3県マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	3,734,043千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	10,599,780千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.35	

(注) (b)は、各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) (c)は、小数点以下2位未満を切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2023年3月2日～2024年3月1日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年3月1日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
TMA東海3県マザーファンド		1,416,601	1,230,744	7,723,661

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2024年3月1日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
TMA東海3県マザーファンド	7,723,661	96.2
コール・ローン等、その他	307,060	3.8
投資信託財産総額	8,030,721	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年3月1日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	8,030,721,236
TMA東海3県マザーファンド(評価額)	7,723,661,163
未収入金	307,060,073
(B) 負債	307,060,073
未払収益分配金	251,510,197
未払解約金	16,531,111
未払信託報酬	38,800,001
その他未払費用	218,764
(C) 純資産総額(A-B)	7,723,661,163
元本	5,030,203,944
次期繰越損益金	2,693,457,219
(D) 受益権総口数	5,030,203,944口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,355円

(注) 当ファンドの期首元本額は5,551,800,069円、期中追加設定元本額は793,889,374円、期中一部解約元本額は1,315,485,499円です。

(注) 上記表中の次期繰越損益金が△表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

(注) 上記表中の1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

○損益の状況 (2023年3月2日～2024年3月1日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	2,373,232,186
売買益	2,621,920,394
売買損	△ 248,688,208
(B) 信託報酬等	△ 75,265,207
(C) 当期損益金(A+B)	2,297,966,979
(D) 前期繰越損益金	176,895,007
(E) 追加信託差損益金	470,105,430
(配当等相当額)	(830,507,841)
(売買損益相当額)	(△ 360,402,411)
(F) 計(C+D+E)	2,944,967,416
(G) 収益分配金	△ 251,510,197
次期繰越損益金(F+G)	2,693,457,219
追加信託差損益金	369,501,351
(配当等相当額)	(734,663,470)
(売買損益相当額)	(△ 365,162,119)
分配準備積立金	2,323,955,868

(注) (A) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (B) 信託報酬等は、消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (E) 追加信託差損益金は、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分です。

(注) 分配金の計算過程は以下の通りです。

項 目	当 期
a. 配当等収益(費用控除後)	163,049,579円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	2,134,917,400円
c. 信託約款に規定する収益調整金	835,267,549円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	176,895,007円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	3,310,129,535円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	6,580円
g. 分配金	251,510,197円
h. 分配金(1万口当たり)	500円

○分配金のお知らせ

1 万円当たり分配金（税込み）	500円
-----------------	------

(注) 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、分配金は全額普通分配金となります。

(注) 分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

(注) 分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合は、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

(注) 元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

○お知らせ

NISA「成長投資枠」の対象商品になるための要件として、「2024年1月時点で信託期間が20年を超えていること」および「ヘッジ目的の場合等を除き、デリバティブ取引による運用を行っていないこと」が定められており、当該要件を満たすため、当ファンドおよび当ファンドが投資対象とするマザーファンドにおいて所要の約款変更を2023年12月2日付で行いました。

TMA東海3県マザーファンド

運用報告書 第21期（決算日 2024年3月1日）

（計算期間 2023年3月2日～2024年3月1日）

ここに、法令・諸規則に基づき、当マザーファンド（親投資信託）の直前の計算期間にかかる運用状況をご報告申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		参 考 指 数	株 組 入 比 率	純 資 産 額
	円	騰 落 率			
17期(2020年3月2日)	32,110	△ 8.9	2,328.64	99.3	8,360
18期(2021年3月1日)	40,089	24.8	2,973.96	98.8	9,098
19期(2022年3月1日)	41,182	2.7	3,028.91	98.5	8,631
20期(2023年3月1日)	43,101	4.7	3,276.54	99.0	9,048
21期(2024年3月1日)	62,756	45.6	4,556.26	99.4	12,229

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		参 考 指 数	株 組 入 比 率
	円	騰 落 率		
(期 首) 2023年3月1日	43,101	—	3,276.54	99.0
3月末	43,485	0.9	3,324.74	97.1
4月末	45,027	4.5	3,414.45	98.3
5月末	46,480	7.8	3,537.93	98.9
6月末	51,339	19.1	3,805.00	99.2
7月末	53,369	23.8	3,861.80	99.8
8月末	54,756	27.0	3,878.51	99.2
9月末	55,368	28.5	3,898.26	98.2
10月末	52,814	22.5	3,781.64	98.3
11月末	55,682	29.2	3,986.65	98.5
12月末	54,873	27.3	3,977.63	99.3
2024年1月末	58,780	36.4	4,288.36	99.3
2月末	62,255	44.4	4,499.61	97.1
(期 末) 2024年3月1日	62,756	45.6	4,556.26	99.4

(注) 騰落率は期首比です。

参考指数はTOPIX（配当込み）です。
 配当込みTOPIX（以下「TOPIX（配当込み）」といいます。）の指数値およびTOPIX（配当込み）にかかる標準または商標は、株式会社J P X 総研または株式会社J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用等TOPIX（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX（配当込み）にかかる標準または商標に関するすべての権利はJ P X が有します。
 J P X は、TOPIX（配当込み）の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、J P X により提供、保証または販売されるものではなく、ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P X は責任を負いません。

○運用経過

(2023年3月2日～2024年3月1日)

■期中の基準価額等の推移

期首：43,101円

期末：62,756円

騰落率：45.6%

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・新NISA（少額投資非課税制度）開始に伴う資金流入期待が高まったこと
- ・円安米ドル高の進行が好感されたこと

マイナス要因

- ・米国において金融引き締め長期化の懸念が高まる場面があったこと



(注) 参考指数は、期首(2023年3月1日)の値が基準価額と同一となるように指数化したものです。

(注) 参考指数は、TOPIX(配当込み)です。

■投資環境

当期の国内株式市場は上昇しました。

期初、米国地銀の経営破綻により、金融システム不安が高まりましたが、その後、FRB(米連邦準備制度理事会)などが迅速に預金者救済措置を発表したことで金融システム不安が和らいだことや、東京証券取引所の要請による国内企業改革への期待感などから、国内株式市場は上昇基調となりました。期中は、米国の利上げ停止期待などが国内株式市場の上昇要因となった一方、日銀の金融政策修正や米国における金融引き締め長期化への懸念の高まりなどが下落要因となり、一進一退の展開となりました。期末にかけては、新NISA開始に伴う資金流入期待や、円安米ドル高の進行、また米国でハイテク関連株が堅調に推移したことなどに後押しされて日経平均株価が過去最高値を更新するなど、国内株式市場は大幅に上昇しました。

■ポートフォリオについて

東海3県(愛知県、岐阜県、三重県)に本社を置き、この地域を支える代表的な企業約50社の株式に投資するファンドです。「時価総額の大きさに応じて投資する戦略」と「配当利回りの大きさに応じて投資する戦略」の2つの戦略を組み合わせることによって、東海3県の経済成長を享受しながら、相対的に高い配当利回りを追求します。当マザーファンドは、東海3県の産業構造などを反映して、輸送用機器セクター、機械セクターなどの銘柄が大きなウェイトを占めています。

当期は2023年4月、7月、10月、2024年1月に、運用の基本方針に基づき、投資対象銘柄の見直しおよび組入比率を調整する定期的なリバランス(投資配分比率の調整)を行いました。その結果、メイテックグループホールディングス、大垣共立銀行を除外し、ホンザキ、物語コーポレーションを新規に組み入れました。

以上の運用の結果、基準価額は45.6%上昇しました。

・プラス寄与した主な業種と銘柄

輸送用機器セクター：トヨタ自動車、豊田自動織機、デンソー

卸売業セクター：豊田通商

○今後の運用方針

引き続き、個別銘柄の投資比率は「時価総額の大きさに応じて投資する戦略」と「配当利回りの大きさに応じて投資する戦略」の2つを組み合わせることにより決定し、東海3県の経済成長を享受しながら、相対的に高い配当利回りを追求します。

○1万口当たりの費用明細

(2023年3月2日～2024年3月1日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 8 (8)	% 0.015 (0.015)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 * 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合 計	8	0.015	
期中の平均基準価額は、52,852円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2023年3月2日～2024年3月1日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		587	1,595,497	713	2,138,545
		(669)	()		

(注) 金額は受渡代金です。

(注) ()内は株式分割、移転、合併等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

○株式売買比率

(2023年3月2日～2024年3月1日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	3,734,043千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	10,599,780千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.35

(注) (b)は、各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) (c)は、小数点以下2位未満を切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2023年3月2日～2024年3月1日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年3月1日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (0.9%)			
東建コーポレーション	11.5	11.7	111,267
食品 (0.9%)			
カゴメ	29.3	30.9	105,060
化学 (1.2%)			
アイカ工業	38	42	150,024
ガラス・土石製品 (8.3%)			
日本碍子	115.9	114	222,414
日本特殊陶業	85	81	370,413
MARUWA	3.4	3	104,550
フジインコーポレーテッド	16.7	40.9	155,624
ニチハ	34.6	45.8	156,636
鉄鋼 (1.5%)			
大同特殊鋼	32.4	105.6	188,443
金属製品 (1.4%)			
リンナイ	14.3	47.8	167,825
機械 (10.3%)			
オークマ	23	22.4	159,756
F U J I	62	61	163,937
オーエスジー	54.9	66.5	140,680
CKD	63	39.2	127,400
ホシザキ	—	41.5	210,322
ジェイテクト	126.5	140.1	198,591
マキタ	70.7	64.3	248,326
電気機器 (3.8%)			
イビデン	36.3	32.3	224,614
ブラザー工業	91.8	93.2	235,143
輸送用機器 (35.4%)			
トヨタ紡織	85.2	84.2	202,585
豊田自動織機	81.4	68.9	1,055,203
デンソー	97.1	380.2	1,052,583
東海理化電機製作所	78.3	58	141,462
トヨタ自動車	349.3	304.7	1,121,296
武蔵精密工業	50.1	54.5	90,252
アイシン	93	81.6	465,120
豊田合成	56.4	56.1	172,675

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
精密機器 (2.1%)			
朝日インテック	67.6	64.2	199,726
メニコン	22.7	30.7	54,538
電気・ガス業 (4.2%)			
中部電力	204.9	202.5	382,117
東邦瓦斯	43.2	41.2	123,806
陸運業 (9.3%)			
東海旅客鉄道	37.4	211	794,837
名古屋鉄道	52.8	55.7	119,142
セイノーホールディングス	89.4	98.8	212,420
卸売業 (10.0%)			
コマダホールディングス	28.8	29	78,300
豊田通商	96.8	85.1	830,490
サンゲツ	49	52.8	184,800
スズケン	32.7	28.5	128,278
小売業 (4.9%)			
セリア	34.7	49.5	148,351
物語コーポレーション	—	11.3	52,262
ネクステージ	25	31.7	79,250
壹番屋	15.1	73.5	88,935
スギホールディングス	19	57.3	135,342
パローホールディングス	48	40.5	97,119
銀行業 (1.1%)			
大垣共立銀行	48.6	—	—
百五銀行	229.4	200.2	134,934
サービス業 (4.7%)			
リゾートトラスト	40.4	49.2	124,525
ユー・エス・エス	87.9	81.7	215,606
K e e P e r 技研	13	9.4	59,502
ジャパンマテリアル	33.9	32.6	84,597
メイテックグループホールディングス	47.6	—	—
ダイセキ	18.2	21.3	83,389
合 計	株 数・金 額 銘柄数<比率>	3,186 50	3,729 50 <99.4%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注) 合計欄の<>内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

○投資信託財産の構成

(2024年3月1日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	12,154,481	96.9
コール・ローン等、その他	384,994	3.1
投資信託財産総額	12,539,475	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年3月1日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	12,539,475,530
コール・ローン等	179,918,606
株式(評価額)	12,154,481,250
未収入金	198,405,574
未収配当金	6,670,100
(B) 負債	310,380,782
未払解約金	310,380,754
未払利息	28
(C) 純資産総額(A-B)	12,229,094,748
元本	1,948,658,172
次期繰越損益金	10,280,436,576
(D) 受益権総口数	1,948,658,172口
1万口当たり基準価額(C/D)	62,756円

(注) 当親ファンドの期首元本額は2,099,315,165円、期中追加設定元本額は298,385,754円、期中一部解約元本額は449,042,747円です。

<元本の内訳>

東海3県ファンド	1,230,744,656円
東海3県ファンド(確定拠出年金)	716,563,664円
TMA東海3県日本株式VA<適格機関投資家限定>	1,349,852円

(注) 上記表中の次期繰越損益金が△表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

(注) 上記表中の1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

○損益の状況 (2023年3月2日~2024年3月1日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	264,582,339
受取配当金	264,605,505
受取利息	724
その他収益金	1,954
支払利息	△ 25,844
(B) 有価証券売買損益	3,744,045,423
売買益	3,801,530,925
売買損	△ 57,485,502
(C) 当期損益金(A+B)	4,008,627,762
(D) 前期繰越損益金	6,949,027,570
(E) 追加信託差損益金	1,230,804,588
(F) 解約差損益金	△ 1,908,023,344
(G) 計(C+D+E+F)	10,280,436,576
次期繰越損益金(G)	10,280,436,576

(注) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (E)追加信託差損益金は、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分です。

(注) (F)解約差損益金は、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分です。

○お知らせ

当マザーファンドを投資対象とする公募投信が、NISA「成長投資枠」の対象商品になるための要件を満たすため、当マザーファンドにおいて所要の約款変更を2023年12月2日付で行いました。